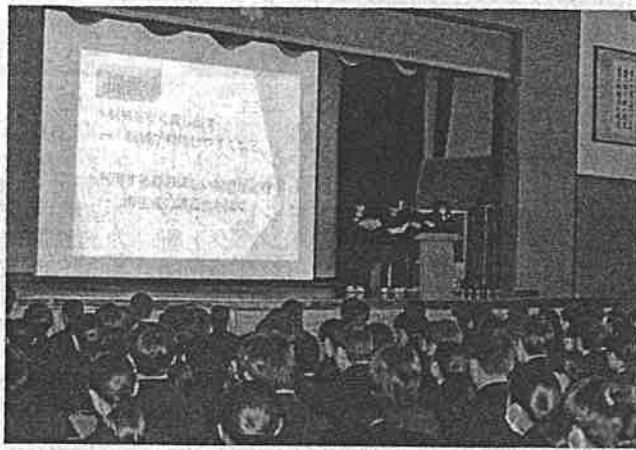


能代高 地域の在り方提言

優秀発表会 探究活動成果を披露



多彩なテーマで研究成果を発表した生徒たち(能代高で)

登壇し、研究成果を披露した。

このうち、**島山美羽**さん(1年)ら男女5人のグループは「農業のイメージ改革」広がるスマート農業」をテーマに発表。他の自治体での成功事例に触れながら、農業従事者の負担を減らし、若者にとって魅力ある職業にする方向性を提言した。

能代高(山田浩充校長)で22日、地域課題をテーマに探究活動に取り組んだ1、2年生のうち、高い評価を受けた生徒たちによる「優秀発表会」が行われた。生徒たちはフィールドワークや聞き取り調査を通して学んだ成果を披露し、より良い地域の在り方について提言した。

「ニュー・ウイル・プロジェクト」の一環。今年度、1年生は▽アグリ▽グリーン▽ヘルス▽ライフ▽ツーリズムの5領域に分かれ、グループごとに活動。2年生は各自が設定したテーマを基に個人で調査を行った。この日は昨年に各領域・学級で行った発表会で高い評価を受けた1年生5グループ、2年生6人が

八幡平スマートファーム(岩手県)が取り組む「スマートファームプロジェクト」を紹介し、農業散布ドローンや農業機械の自動化や省力化につながっている」と指摘。導入段階での高コストをテーマに挙げたが、「自治体が機器を安く生産者に貸し出したり、操作を指導する講習会を行うことで、若者だけでなく高齢者も取り組みやすくなるのでは」とした。

一方、地方銀行による地域経済の活性化についてまとめた高橋真麗香さん(2年)は、インターネット先の北都銀行の事例や、銀行業務を基に考察。銀行の役割のうち、銀行が貸し付けで預金通貨を増やす「信用創造機能」に注目し、地域の特色を生かした事業やビジネスに融資することを提案。その上で、「コメの生産が盛んであることを生かしたアグリビジネスや、高齢化率の高さと自然の豊かさを生かした観光地での散歩といった事業が考えられる」とアイデアを披露した。